

I . 調査概要

I-1. 調査のタイトル

令和5年度 バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する意識調査について
(インターネットによる意識調査)

I-2. 調査目的

21世紀の我が国が目指すべき社会は、障害者・高齢者等を含めたあらゆる人々が社会のあらゆる活動に参加、参画するとともに、社会の担い手として役割と責任を果たすことができる社会であり、この目指すべき社会の実現のためには、障害者・高齢者等の諸活動や社会への参画を制約している様々なバリアを除去することが求められている。

このような状況の中、障害者・高齢者等を含む全ての人が安全で快適な社会生活を送れるよう、ハード・ソフト両面を含めた社会全体のバリアフリー・ユニバーサルデザインの推進が喫緊の課題となっており、国としても「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」の施行により建築物や公共交通機関のバリアフリー化を推進するとともに、障害者・高齢者等でも使いやすい製品の開発を促す等、社会全体にバリアフリー・ユニバーサルデザインを促進してきた。

さらに、平成30年12月には、「ユニバーサル社会の実現に向けた諸施策の総合的かつ一体的な推進に関する法律」が成立・施行され、内閣府においても、関係機関と相互に連携を図りながら、ユニバーサル社会の実現に向けた諸施策を総合的かつ一体的に推進しているところである。

このような状況の下、関係府省庁にまたがる横断的な課題であるバリアフリー・ユニバーサルデザインに関して、各種施策を更に推進するためには、国民のバリアフリー・ユニバーサルデザインに関する現状の認識・評価や将来のニーズを的確に把握することが重要となっている。このため、バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する意識調査(インターネットによる意識調査)を行い、今後の諸施策の推進に資するものとする。

I-3. 調査概要

(1) 調査項目

バリアフリー・ユニバーサルデザインの認知度、交通機関や施設等におけるバリアフリー・ユニバーサルデザイン化、心のバリアフリー等
具体的には下表の通り。

No.	調査項目	No.	調査項目
FACE	1 性別	12	公共空間(現状)
	2 年齢	13	公共空間(今後)
	3 職業	14	公共空間・情報提供(現状)
	4 居住地	15	公共空間・情報提供(今後)
	5 自身・同居者の状況	16	情報利用(現状)
	6 最頻利用の交通機関	17	情報利用(今後)
Q	1 バリアフリー及びユニバーサルデザインの認知度	18	製品(現状)
	2 ユニバーサル社会の認知度	19	製品(今後)
	3 総論(現状)	20	活動(現状)
	4 交通機関(現状)	21	活動(今後)
	5 交通機関(今後)	22	心のバリアフリー(現状)
	6 交通機関・情報提供(現状)	23	心のバリアフリー(行動)あり
	7 交通機関・情報提供(今後)	24	心のバリアフリー(行動)なし
	8 施設(現状)	25	心のバリアフリー(今後)
	9 施設(今後)	26	総論(施策・現状)
	10 施設・情報提供(現状)	27	総論(施策・今後)
	11 施設・情報提供(今後)		

(2) 調査対象

全国の15～79歳の男女。全国の性別・年代別人口分布を基に抽出。

(3) 調査期間

令和5年7月12日～7月18日

(4) 調査方法

調査会社の登録モニターに対するインターネット調査

(5) サンプルサイズ

各年 2,500 人。実施年ごとの回収割付数は下表の通り。

令和 5 年度は総務省「人口推計(2023 年 7 月概算値)」の値を基準に設定した。

セグメント	令和3年度	令和4年度	令和5年度
男性 15～19歳	77	77	72
20代	160	160	168
30代	190	190	176
40代	238	238	220
50代	196	196	228
60代	215	215	187
70代	165	165	193
女性 15～19歳	73	73	69
20代	152	152	158
30代	184	184	169
40代	233	233	215
50代	196	196	226
60代	226	226	194
70代	195	195	225
	2,500	2,500	2,500

(6) 調査会社

株式会社ロイヤリティ マーケティング

(7) データ上の注意

表中の数値の単位は%。また、単位未満を四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。
アンケート画面では選択肢や項目に番号を振って回答者に呈示したが、本報告書では番号を省略して記載した。